

羽ばたく薬剤師

新年度が始まり、真新しい制服に身を包んだ新入生や希望を膨らませて歩みを始めた新社会人の姿が目に残ります。我が母校の東京大学では4月12日に日本武道館にて入学式が行われました。昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止になりましたが、今回は家族等の参加は認めず、新入生のみ限定しての2年ぶりの入学式開催となりました。新生活は新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制約や戸惑いもあるかと思いますが、夢や希望を実らせるべく、感染予防に十分留意して充実した日々を過ごして頂きたいと思います。

さて、今年も新たな薬剤師が誕生しました。2月20日、21日に行われた第106回薬剤師国家試験の合格発表は、3月24日に行われました。受験者数は14,031名、合格者数は男性3,436名、女性6,198名の9,634名、合格率は68.66%となりました。新卒者に限ってみてみると、受験者数は8,711名、合格者数は7,452名、合格率は85.55%となっています。

新たに薬剤師になった皆さんは、病院の医療チームの一員として、地域医療の担い手として、患者さんのため、地域住民のため、それぞれの職場で医療提供者としての歩みをスタートさせました。新型コロナウイルス感染症の患者治療やワクチン接種の実施等で多忙を極めている医療現場ですが、薬物治療の専門家として頑張りたいと思います。

近年、薬学教育の充実の必要性や薬学生の質の向上が囁かれています。厚生労働省も「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」を設け、今後の薬剤師の養成や資質向上等について検討を行っています。

薬学教育の現状について少し確認してみたいと思います。文部科学省は毎年、薬学教育に関して「各大学における入学試験・6年制学科生の修学状況」を公表しています。2021年の結果はまだ公表されていませんので、昨年の集計結果で6年制学科生の修学状況を見てみました。文部科学省の資料には、新入学生が6年後に薬剤師に合格した割合が示されています。国公立大学では、何れの学校も80%台若しくは70%台となっています。私立大学は80%台、70%台の学校も多くありますが、50%を下回る学校が4分の1程あります。中には30%を切る大学も認められます。また、この資料には、2020年度の各大学の入学定員に対する入学生の充足率が示されています。国公立大学では、いずれも入学定員をほぼ満たしていますが、私立の大学には定員割れしている大学も複数あり、中には50%に満たない大学まであります。

やはり質の高い薬剤師を養成していくためには、優秀な学生を呼び込み、大学間の格差を無くしていくことが必要ではないでしょうか。